

今回は15号、16号同時発行です！

8月25日～26日にかけて、SDGs Days が行われました。まずは1年生の教科横断の取り組みの様子をお伝えします。

SDGs Days 2020～教科横断の取り組み～

私たちは8月25日、26日にSDGs Daysということで「国際性」をテーマに世界に目を向けた学びを行いました。この2日間は教科横断の授業で世界の問題や様々な文化、日本と世界の比較などを行いました。普段とは違った視点で世界を見ることができ、貴重な時間となったのではないのでしょうか。これをきっかけに世界の問題や文化などに興味を持ち、世界を広い目で見ることによって何か新しい発見をすることができるかもしれません。ここでは、私たち1年生が学んだ内容をご紹介します。

数学

数学では、オランダの大学入学準備期間に学ぶ内容を通して、それぞれの国の「数学」の違いについて考えました。オランダの数学では、雇用手当の計算など、実生活に即した内容が出題されおり、日本で出題される数学の問題よりも具体的な内容が出題されているということが分かりました。日本では抽象的な問題を活用して応用する力が必要とされているように感じました。



外国語

外国語では、PC (political correctness) について学びました。政治的公正という意味を持つPCは、言葉よっての差別をなくそうという考えです。例えば、chairmanではなくchairpersonという言葉を使うことで、男女差のない言葉遣いになります。差別といっても一般的に捉えられる、気をつけないことで起きてしまう差別だけでなく、気をつけすぎることで起きてしまう差別もあるのではないかという意見が出ました。英語を国際語としてどのように使うべきなのかを考える良い機会となりました。

音楽

音楽では、各国の音楽に触れることで世界の様々な文化について考えることができました。例えば、インドネシアのバリ島で演奏されている男声合唱を伴奏とする舞踏劇であるケチャを体験しました。ケチャ独特の三拍子と四拍子が組み合わさった独特のリズムの絡み合いは演奏していてとても楽しかったです。

社会

社会では新型コロナウイルス蔓延というこの状況に合わせて、感染症に関する歴史について学びました。今回は、ペスト菌という細菌について教えていただきました。授業を通してペストの大流行が、時がたつにつれて大きくなっていった要因を歴史的な事象から考えました。それにより、今回のコロナウイルスの大流行によって今後もたらされるであろうプラスの影響を、歴史的な事実から身近なことに絡めて考えることができました。



みるおさん

感想

今回は、国際問題やSDGsについて教科横断的な思考で考えることができました。今後も、ひとつの事柄に執着して考えることなくすべてのカテゴリーを視野に入れて、物事を考えたいと思います。

各教科の実施内容

| 教科 | 学習の内容 |
|---------|------------------------------------|
| 国語 | FACTFULNESS |
| 地歴公民 | 歴史から考える感染症の光と影 |
| 数学 | 世界における“数学”の位置づけ |
| 理科 | iPS細胞でどれぐらいの病気を治せるのか |
| 保健体育 | 健康寿命・消費税率・医療制度の国際比較 |
| 芸術 | 世界の音楽めぐり |
| 外国語(英語) | English and Equality ～What is PC?～ |
| 家庭 | 「MOTTAINAI」～「食品ロス」について考えよう～ |

SDGs Days の2日目には、岡本尚也先生のご講演を聴き、探究活動について理解を深めることができました。

岡本尚也先生のご講演を聴いて

本校の Meraki 教材に使われている課題研究メソッドの作者でもある岡本尚也先生にご講演をして頂きました。先生のご講演の中では、成長するためには自分が何をしたいか、それを達成するために何をすべきか、その中で何をしたいのか考えることが重要だということを知りました。また、目標設定や研究方法についても知りました。目標設定については新聞で気になる言葉があればそれが自分のやりたいことのサインであること、研究方法についてはデータに対して意見を出し、データや意見に、なぜ？というような原理を追うといいと知りました。最後に岡本先生に大切なことを4つ知りました。1つ目は「知識」を増やして「視点」を増やすこと。2つ目はグローバルよりボーダレスな挑戦を。3つ目は何が目的か何が手段か明確にすること。4つ目は自分の足で人生を歩むことです。今回のご講演では今後の Meraki の授業に役立つことはもちろん、普段の生活の中でも役立つことを多く教えてもらいました。このご講演の内容を頭に入れてながら探究活動をすすめていきたいと思っています。



SSH 全国大会参加者の感想

8月に令和2年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会が開催されました。今年はオンラインでの実施となったため、メラキラボで発表の練習と動画撮影をしてエントリーしました。各校のポスターデータとポスター発表動画は参加校等に限定して8月7日から8月28日にかけてSSHホームページ上で公開されました。この発表会には毎年3年生が参加しています。今年度は「どの日焼け止めが一番効果的？」をテーマに研究したグループが出場しました。出場し終えての感想を紹介します。

2年生の秋頃、新しくチームを作って、「全国大会に出場してみたいよね」という漠然とした思いがありましたが、まさか本当に出場できるなんて思ってもいませんでした。研究内容を決めるところからたくさん悩みました。1つ問題を解決したら、新しい問題が浮上り、エンドレスでした。その都度助けて頂いた先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。私たちの研究内容はどちらかというと化学分野であり、メンバーは化学が好きの人が集まっていたため、最後まで楽しい実験ができました。まだまだ私たちの研究には課題が残っています。人と環境とのつながりについて調べることができなかったのが心残りです。メンバーの中で得意分野を生かして役割分担ができたので、円滑に進めることができました。言葉の定義を決めたり、思いもよらない実験結果が得られたり、驚きや発見が多くありました。とても貴重な経験ができたと思っています。今回の発表に関わって下さった方々に感謝したいです。

松永彩那

1年生の時にもSDGsは学んだのですが、その時には今は全く違うテーマで研究していました。その研究は自分たちで実験して進めていくものではなく現在わかっていることを調べたり、アンケートをとったりというもので、もっと今までにしたことのないこと、結果が分かってないことについて自分の力で調べてみたいと思い、今回私たちがしたような日焼け止めについて研究ははじめました。研究をする本人の興味があるものでないと、深く考えることは難しいと思うので、一番大切なのはテーマ設定ではないかと思っています。私たちもテーマ設定には時間がかかったのですが、最終的には身近にある日焼け止めにしたので、難しいことをしようとするのではなく授業中に先生が話している、疑問に思ったことや自分の身の回りのことなどに目を向けるのが良いのかなと思います。自分たちで器具を使って実験したり、考えたりして実践できたことが楽しかったので、ぜひみなさんも楽しんで研究してください！！

馬込乃愛

今年度のSSHの全国大会は昨年と違い、オンライン開催であったため研究に対する質疑応答などはなかったが、それでも準備するのは大変だった。2年生のときからこの研究を始めて、メンバーのみんなと試行錯誤しながら研究や実験をするのは大変だったが、とても楽しかった。でも、私たちが全国大会に出場できたのは先生方のたくさんの協力のおかげです。普段の授業では使用することのない専門的な器具を使っての実験や、人に伝わりやすく見やすいポスターの作成方法など、将来の仕事にも役立つようなことをたくさん教わりました。「研究活動なんてめんどくさい」と思わずに、真面目に取り組むときっといいことがあるはずです！！ちなみに私は全国大会に出場したことで、大学への推薦条件を満たすことができました。このように、勉強だけでなく、役に立つこともあるので積極的に活動を楽しんでください。

山田桃花

日焼け止めという身近なものを対象に実験しました。ですが、研究をしていく中で専門的なこととなり、難しい部分もあったため、私達だけでなく先生にもたくさんサポートして頂きながら研究を進めていきました。日焼け止めを水と混ぜ、水溶液を作る際に日焼け止めが分離してしまい、なかなか混ぜられなかったところに苦戦しました。最終的には日焼け止めとサンゴの関係に結びつけて考えたかったのですが、時間などの都合上難しかったので、64期以降の人が研究してみてくださいと嬉しいです。

三溝詩乃

オンラインだったので全国大会という実感はありませんでしたが、学校内の発表よりも注意しなければいけないことがあったり、細かいところまで気をつけなければいけなかったりして大変でした。実験はやりすぎかなと思うくらい細部まで気を付けて、後で考察などを考える時に困らないようにすべきだと思います。1番重要なのはテーマ決めだと思います。身近なもので自分たちが興味を持ちつつ研究できるテーマを設定できれば、いい研究になると思います。

仲間綺海

